

一、念、信、解の功德・一念、隨喜の功德
一、念、隨喜とは、法華經を修行する初心の行者の位をいいます。一念は一瞬の短い時間を
一、念、隨喜とは、法華經第十に説かれています。次に法華經本門の『分別功德品第十七』に説かれてい
ます。

と減念法師品に説かれています。一念隨喜の者の功德の深重なることが明かされています。ここでは仏の在世
の妙法華經の、一偈一句を聞いて、乃至一念も隨喜せん者には、我皆記を与え授く。

「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は

「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は
「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は
「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は

「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は
「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は
「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は

「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は
「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は
「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は

「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は
「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は
「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は

「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は
「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は
「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は

「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は
「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は
「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は

「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は
「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は
「法華經多羅三藐三菩提を得べし」(法華經 三一八頁)の文について、天台大師は

この「随喜品」が、一、在世的の法華經修行の位である。四信の第一「一念信解」と、滅後の五品の第一「又復、如来の滅後に、深信解の相と為す」と、法華經の四五六頁「初信の位のことです」。

當に滅後、同品の量は、の深信解を聞いて、法華經の四五六頁「初信の位のことです」。

生ぜば、衆生有つて、仏の壽命の、長遠是の如くなるを聞いて、乃至能く一念の信解を

随喜の功徳である。一念信解の功徳を説き明かしています。

法華經第十五の「隨喜品第十八」には、滅後五品中の隨喜品の因の功徳として五十展

この衆生、の「隨喜の功徳」が説かれて、法華經を聞いて隨喜せん者をや。尚無量無辺阿僧祇なり。展

一も徳で順の「隨喜」は、名字即位の法華題目抄に、隨喜の功徳も、經文の一偈一句、一念隨喜の功徳を説いた功

十「隨喜」は、名字即位の法華題目抄に、隨喜の功徳も、經文の一偈一句、一念隨喜の功徳を説いた功

天「隨喜」は、名字即位の法華題目抄に、隨喜の功徳も、經文の一偈一句、一念隨喜の功徳を説いた功

正氣「隨喜」は、名字即位の法華題目抄に、隨喜の功徳も、經文の一偈一句、一念隨喜の功徳を説いた功